

# アマチュアゴルファーの最高峰 スクラッチプレーヤー (ハンディキャップ0) に関する研究

トップスポーツマネジメントコース  
5012A316-3 田中 耕介

研究指導教員：平田 竹男 教授

## I. 『背景』

日本ゴルフ協会（JGA）によると、2015年、団塊の世代が退職後にゴルフ離れをするのではないかと危惧しており、シニア層を引留めなければならぬと考えられている。ゴルフが生涯スポーツとして健康にどれだけ有効かを訴求することや競技ゴルフの楽しさを味わうことで趣味として継続させる策が講じられている。日本のゴルファー人口は1,000万人（総務省調べ）に達する。しかし、JGA オフィシャルハンディキャップ所持者は15万人でゴルファー全体のわずか1.5%である。

2014年、JGAはアンダーハンディキャップ競技を充実させ、技量の差はあっても老若男女競技ゴルフが楽しめる環境を整備することを目的に全国全コースの統一ハンディキャップ制を導入する。また、2016年、リオデジャネイロ五輪からゴルフが正式種目に復活する。

筆者はスクラッチプレーヤーとして10年間競技ゴルフを続けている。プロゴルファーやゴルフトーナメントに関する研究やジュニア育成、スイング理論、医学的見地からみたゴルフ、ゴルフ史に関するアマチュアゴルファーを含む研究はあるものの、アマチュアゴルファーをスクラッチプレーヤーに絞り、その現状を明らかにした研究は存在しない。そこで、アマチュアゴルファーの最高峰であるスクラッチプレーヤーの生活環境、ゴルフに対する考え方・流儀、ラウンド環境、練習環境、ゴルフの技量を科学的に明らかにすることを研究目的とした。

## II. 『研究手法』

2012年10月から12月にかけて、プロゴルファーおよびアマチュアゴルファーに対して、技量レベル、ラウンド数と練習量、ゴルフに対する意識などについてアンケート調査を実施し、577名より回答を得た。その内、有効回答と判断した459

名のアンケート調査結果をまとめた。さらに、スクラッチプレーヤー30人を含む計70名に対して、生活環境、練習内容、ゴルフに対する考え方をインタビューすることで、カテゴリー毎の意識差、練習の質や量の差を調査した。

また、プロとスクラッチプレーヤーの技量の差を明らかにするためにレギュラープロ、シニアプロ、スクラッチプレーヤーのホールバイホールやラウンド結果から得られるデータ（フェアウェイキープ率やバーディー率など）を比較分析した。

## III. 『アマチュアゴルファーのアンケート調査結果』

アンケート調査で得られた結果から、それぞれのカテゴリーの選手になるためのマイルストンの定義、自信を持って打てるクラブ、練習場での使用クラブを表1から表3に示す。

表1. マイルストンの定義

マイルストーン	ハンディ キャップ	ドライ バー	年間 ラウンド	月間 練習場
プロ	-	270y	190回	21回
スクラッチ	~0	265y	150回	12回
ハンディ5以下	1~5	255y	100回	9回
シングル	6~9	245y	50回	6回
ハンディ18以下	10~18	235y	28回	4回

表2. 自信を持って打てるクラブ

自信ある クラブ	ドライ バー	ウェッジ	アイアン	パター
プロ	○	○	○	○
スクラッチ	○	○	○	×
ハンディ5以下	○	○	×	×
シングル	○	×	×	×
ハンディ18以下	×	×	×	×

表3. 練習場での使用クラブの割合

練習場 使用クラブ	ドライ バー	FW ウッド	アイアン	ウェッジ
プロ	15%	16%	33%	36%
スクラッチ	17%	20%	28%	35%
ハンディ5以下	21%	18%	37%	24%
シングル	22%	21%	36%	21%
ハンディ18以下	22%	25%	36%	17%

#### IV. 『ゴルフの技量に関する調査』

ホールバイホールの分析により得られた平均スコアは表4の通りである。プロとスクラッチで一番際立つ違いはダブルボギーを打つか打たないかである。Par3のバーディー数はレギュラープロであっても1つ未満である。レギュラープロは4バーディー2ボギーの70、シニアプロは2バーディー3ボギーの73、スクラッチプレーヤーは2バーディー2ボギー1ダブルボギーの74でラウンドしている。

表4. 平均スコア

平均スコア	Par3	Par4	Par5
レギュラー プロ (70)	オールパー	バーディー2 ボギー2	バーディー2
シニアプロ (73)	ボギー1	バーディー1 ボギー2	バーディー1
スクラッチ (74)	ボギー1	バーディー1 ボギー1 ダブルボギー1	バーディー1

ラウンド結果から得られるデータを表5に示す。

表5. ラウンド結果から得られるデータ

	ドライバー 飛距離	フェアウェイ キープ率	パーオン 率	平均 パット	パーキープ 率
レギュラー プロ	281y	51%	63%	1.8	83%
シニアプロ	270y	54%	64%	1.8	81%
スクラッチ	267y	50%	59%	2.0	73%

ドライバーの飛距離、フェアウェイキープ率、パーオン率はプロとスクラッチの差はあまりないが、平均パットとパーキープ率で差がある。プロはアプローチ、パターの技術が優るのである。

スクラッチプレーヤーのパーオン率はプロゴルファーと同様で約60%であるため18ホール中7ホールはグリーンを外している。グリーンを外した7ホール中3ホールはパーを死守している。

#### V. 『スクラッチプレーヤーとは？』

男子スクラッチプレーヤーは、全国に460人しかいない。JGAハンディキャップ男子所持者のわずか0.4%である。大別すると2つのタイプに分かれる。1つ目は、学生ゴルフ部出身で2代目営業者・経営者である。2つ目は、社会人になってからゴルフを始め競技ゴルフが生きがいになっている人達である。

ラウンド前には、スタート時間の2時間前にコースに到着し、まずストレッチをする。次に練習グリーンに向かいロングパットで曲がり具合、下り・上りの早さを確認する。次にドライビングレンジで本番を想定しストレート・フック・スライスを打つ。その後、アプローチ練習場でバンカーの砂の固さ、ランニングアプローチのころがり、ピッチショットのスピンを実践に備え確認する。最後にもう一度練習グリーンに行きショートパットを45度ずつ8方向から強めにカップインさせる練習をする。また、自らを分析出来るように自己のスコア管理をシステム化している。

普段の練習から実践を意識している。自宅では、庭やバルコニー等に鳥かごの練習ネットを作り、朝晩クラブを振っている。朝晩アプローチ練習することで感覚を維持している。パターに関しても、ほぼ毎日リビングルームのパターマットで10分50球程度練習している。

所属ホームコースにおいては、理事・役員を務め後進への技術・マナー・ルール・エチケット指導も率先して行っており、フェアプレーの精神でアマチュアゴルファーの模範となっている。コースへの愛情も強くディポット跡の目土、グリーンへのピッチマークの修復も率先して行っている。また、上部組織の日本ゴルフ協会・関東ゴルフ連盟の役員・委員を務めている人も多い。

本研究がアマチュアゴルフ界に対しての理解の深まりに貢献できれば幸いである。

